

■夢の実現へリニア中央新幹線⑤  
魅力ある駅周辺整備を探る②  
北陸新幹線「糸魚川駅」

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

先月に引き続き、全国のオリジナリティ豊かなコンセプトや特徴あるまちづくりを行っている新幹線駅として、今月は平成27年春に開業を迎える北陸新幹線延伸区間（長野～金沢）から糸魚川駅をご紹介します。

問 リニア推進課（管内線323）

糸魚川駅（新潟県糸魚川市）

糸魚川駅から海岸まで約400m。新潟県糸魚川市に「日本海に一番近い新幹線駅」が、在来線の既存駅に併設する形で建設が進められています。

駅舎は2階が改札、3階がホームとなり、ホームの高さは地上から約32mと3階構造で開業する新幹線駅の中で一番高い駅舎となります。このような高い位置にホームが設置されるのは、新幹線駅付近に国道と北陸本線が通っており、新幹線の線路が国道と北陸本線の上を高架橋で横断するルートとなるためです。

駅舎の1階には、ジオパーク<sup>※1</sup>情報発信コーナー（観光案内）、ジオラマ鉄道模型ゾーンを設置し、アルプス口（南口）には在来線駅のシンボリック存在でもあった赤レンガ車庫<sup>※2</sup>の一部を再構築した外壁が整備され、車庫の



海岸まで約400mと海に近い糸魚川駅

一番左のアーチから、通常は1階に展示されるキハ52型車両<sup>※3</sup>をイベントなどにあわせて引き出せる仕掛けが施されています。

在来線駅は、新幹線との乗換や住民の鉄道利用者の利便性を考慮し、橋上化され、在来線と新幹線駅を結ぶ自由通路を設置し、新幹線開業時には常時行き来できる予定です。

デザインコンセプト  
日本海と北アルプスに抱かれた  
雄大な自然を感じさせる駅

北陸新幹線各駅は地域の特徴に応じたデザインとなっており、糸魚川駅舎は日本海の波、北アルプス、ジオパークの断層、ヒスイ<sup>※4</sup>をイメージした地域らしさを現し、また新幹線駅ホームの窓からは、アルプスの山々、日本海が一望でき、雄大な自然を感じさせるなど訪れる人にとって魅力的な駅となっています。

（写真資料提供・糸魚川市）



地域の特徴に応じたデザインの糸魚川駅舎

※1：貴重な地質、地形、火山などの地質遺産を複数有する自然公園。

※2：大正元年に完成した全国的にも極めて貴重な総煉瓦造りの車庫。北陸新幹線延伸工事に伴う糸魚川駅高架化工事により平成22年春に解体。

※3：昭和32年から40年にかけて、1千両以上製造された一般型気動車「キハ20」系列に属する車両。

※4：深緑の半透明な宝石の一種。糸魚川市は日本最大のヒスイの産地。

リニアを活用した  
地域の将来像について語る

2月18日、国土交通省中部地方整備局・中部運輸局主催による「中部圏地域づくりフォーラム」が名古屋市中心部の吹上ホールで開催されました。

はじめに、奥野信宏中京大学総合政策学部教授による「リニア中央新幹線と中部圏の新たな飛躍」と題した基調講演が行われ、続いて「リニア開業に向けた地域づくりと地域の特性を活かしたリニア3駅からの発展シナリオ」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションではリニア新駅が設置される名古屋市長、飯田市長、津川市長と有識者が参加し、リニア開業に向けた地域づくりについて意見を交わしました。

青山市長は、「駅周辺は交通結節点としての機能に特化したコンパクトなまちづくりとし、オンラインワンストップの観光資源として車両基地の活用も進めたい」と述べました。



地域の将来像について語る（写真左より）  
河村名古屋市長、牧野飯田市長、青山市長